

夢のアッサンプラージュ

パプアニューギニアにおけるギターバンド歌謡の技法をめぐって

諏訪淳一郎（弘前大学）

パプアニューギニアでは、1975年の独立を契機として社会インフラの整備が進み、積極的にグローバルな音楽を受容しつつ、現地の村落社会の中で盛んにポピュラー音楽が生み出されている。1990年代までには、首都ポートモレスビーと最初に音楽産業が勃興したラバウル（火山噴火被災後はココポ）だけでなく、より規模の小さなマダン、ケヴィエン、ゴロカといった地方都市にもレコーディング・スタジオが生まれ、ライブ演奏のほか、カセットやラジオといった媒体によって盛んに楽曲が生み出されることとなった。

それらの楽曲はほぼ例外なくギターによるバンドの伴奏の付いた歌謡であるが、ピジン語が混在して歌われているものの、伝統的な舞踊を含めた在来語の歌詞が選ばれる傾向にある。

本発表では、1990年代にマダン市周辺の村落で作曲されたギターバンド歌謡を事例として、その作曲技法が夢とつながりを持ち、音楽が鳴り響く時空間において、アッサンプラージュとして顕現する局面を取り上げる。そして、一般にアッサンプラージュが空間のアレゴリーとして取り扱われている状況に対して、音楽によって時間もアッサンプラージュとなりえていることを明らかにする。

1990年代以降のマダンでの音楽活動は、市街地の周辺に位置する村落の住民によるバンドによってもたらされている。彼らは、村落における地縁血縁関係をバンドの構成原理としつつ、新たなテクノロジーをメディアや都市部で培った人脈によって取り入れることにより、1970年代のアコースティックギターを中心とする「ストリングバンド」や、1980年代以降の電子化された「パワーバンド」の担い手となってきた。そして、音楽活動のプロデュースは都市部の起業家が設立したスタジオが担ってきた。

マダン市周辺村落のギターバンド歌謡の中で、予知も含む「夢」が作曲プロセスに現れるパターンには二つの傾向が見られた。

一つ目は、音楽を演奏する技能そのものが夢の中での啓示によってもたらされたとする言説、もう一つは個別の曲が夢の中に現れたとか、何かの現実の出来事の予告として語られている場合であった。前者は、左手にギターを構える Yondik という名の盲目のアーティストの幼少時の体験として、夢枕に現れたギターを手にした老人が弾き方を教えたと言っている。その夢を見てから、彼は両親に楽器を手に入れてほしいとせがみ、親類のギターを手にして独学で奏法を学習した

という。

Yondik によるこのような神秘的語りは、一般には自身の音楽性を特殊化し権威づけるための言説として理解されるだろう。しかし、彼自身の中に音楽家としての名声を高めたいというような動機づけが必ずしも顕著でない場合、こうした言説は実利的な枠組みの中で解釈するのが困難になる。Yondik の神秘的な語りは、夢という時間が音楽の演奏を通じてアッサンプラージュを生み出す作用としての側面を考えなくてはならないことを示唆している。

二つ目の語りは、夢に現れた歌詞とふしをギターバンド歌謡に仕立て挙げたというものである。これも、特にそのように告白しなくてはならない意味を認めることはできないし、数も極めて少ない。このパターンの語りにおいては、歌謡が具現化した時空間が日常生活の中ではなく、夢という別の秩序を持っている時空間に由来しているという感覚である。そして、このような夢と作曲との関係について語る言説は、パプアニューギニアにおいてなぜギターバンド歌謡が創作されるようになったかという根源的な問いに光を当てる。

ドゥルーズとガタリ『千のプラトー』において、アッサンプラージュは二次元的（とくに地質的）な空間のアナロジーとして取り扱われている。そうした例が見落としがちなのが、必然的にアッサンプラージュには時間的な広がりすなわち時空間も関与しているという点である。夢は、この時間によるアッサンプラージュを出来事化し、想像界と現実界を橋渡しする作用を持っている。時間はいったん出来事としてブロックとなり、ついで表象を通じてそれぞれが部分であり同時に全体でもあるようなアッサンプラージュとして顕現する。

マダンにおけるギターバンド歌謡の作法に関する事例は、ギターバンド歌謡の表現が一種の仮定法による回路によって成立することを示唆する。すなわち、ギターバンド歌謡が受容される局面においては、「ありうべき世界」の現実界での顕現として音楽が出来事化する。この局面においては、鳴り響く音の波動が夢による現実への介入として感受されることによって、音楽をポストコロニアルのジャンルとして成立させている。

このような「ありうべき世界」は、音楽の響きにおいて仮想と現実が入り交ざるアッサンプラージュであり、その意味においてアッサンプラージュを一つの時空間を形成する。こうして、夢のアッサンプラージュはポストコロニアルな社会状況を「ありうべき世界」と音楽と歌声の響きの中に接合するのである。

キーワード パプアニューギニア、音楽、夢、アッサンプラージュ、ポストコロニアリズム